

ソメイヨシノ 染井吉野

豊島区駒込2-3-5

原口時夫

TEL 3917-0392

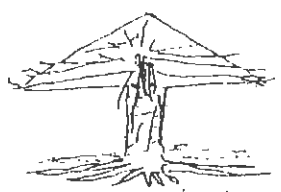
春の到来をつげる サクラ前線 (都内では靖国神社境内の染井吉野桜が標準)
幕末・明治初期・染井村を中心として栽培され全国に売出される。(吉野桜ブランド)
※ 植木の里・染井村は現在の豊島区駒込3・6・7丁目界内 (豊島区の本)

- 1 起源 現在は オオシマザクラとエドヒガン (ウバヒガン) の雑種が通説
※ 竹中 要 道伝学研究者
※ 伊豆大島説・済州島説もあり
- 2 性格 花が咲いてから葉がでる (淡紅色の一重) 満開時は「霞か雲か」の景観で真に御
爛豪華。散り始めの見事さから大和心・皇国史観イメージがある (太平記・
楠木父子の桜井の関のわかれ・児島高德・本居宣長...etc...)
満開の花の下、花見の風俗は江戸時代から始まっている (落語の長屋の花見etc)
繁殖が容易、成長が早い花つきもよく夏は緑陰、秋は紅葉、冬は落葉。
樹形は傘状、大枝など切ると著しく風情がそがれる。樹齢がみじかい。

- 3 沿革 幕末〜明治 染井の植木の里で栽培 染井村を中心として駒込・巣鴨で
「吉野」の名で売出す。上野公園の桜調査から「染井吉野」の名称が
正式にさまる M33年 学名 ソメイヨシノ バウ科
明治時代に入り近代国家体制となり太陽暦の採用 (4月より新年度)
公共施設・道路等に集団的植樹、官公庁・学校・共済舎・公園・庭園・河川の
堤・城跡 etc ※ M30〜40年にかけて急速に広がる。
江戸時代より賑いのある上野山・飛鳥山も染井吉野に植樹されている。

染井吉野桜記念公園 平成9年12月完成 豊島区駒込2-2-1 (発祥の里記念碑)

- 4 人物 ^{かわしる きんぞう}
河島銀蔵 (桜香園) M43年 桜花銘鑑に掲載 M43 (現) 豊島区3丁目
^{たかぎ じうごうえしん}
高木孫右衛門 (梅芳園) 荒川堤に74種の桜を植樹 M19
※ 染井吉野の品種工作に植木屋は謎とされているが河島銀蔵がかかわっていると考えられ



木型 空型
※ 枝が横方向に伸びる

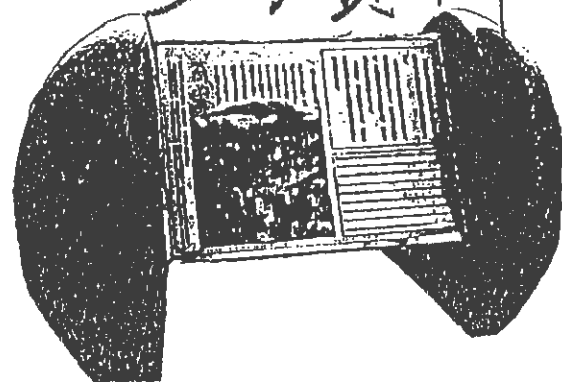
伊藤伊兵衛 (三之丞・政武 父子) 藤堂家に入入「霊除」「庭掃除」
政武は 将軍 吉宗にかかわりかれた。伊藤植樹仙とも号される
錦繡枕・地錦抄・花塩大全 (園芸書) 1753年 73才没
英人 ロバート フォーチュン 1860 園芸学者 (江戸と北京) 著書
“私は世界中どこをいってもこんな大規模な売物の植物を栽培しているのを見ることがない”



染井吉野記念公園
平成9年12月完成
豊島区駒込2-2-1
約1000m²

※ 染井植木屋の絵図

参考資料



染井吉野桜発祥の里 記念碑 (記念公園内)